

## ヒロハネム ( マメ科 ) *Albizia mollis* var. *glabrior* Koidz.

5月17日(日)の自然体感会で九十九島の一つ亀の子島へ渡りました。高島真珠によって橋が架けられていますが、今では朽ちて渡れなくなっています。しかし、この島は中潮の干潮程度でも歩いて渡れますので、歩いて渡れる独立した島としても珍しい存在でしょう。

もう一つ珍しいのが玄武岩が砂岩層(尼瀉層)に貫入して出来た島だということです。九十九島は全て砂岩の島ですから、唯一火成岩でできた島としても珍しいものです。さらに、面白いのは玄武岩が貫入する際に熱変成岩が出来ている事です。自然体感会では、この熱変成岩を見るのがメインでした。

地質図を見ていて亀の子島は玄武岩の貫入が示されていたので興味を持ち、確認に行き熱変成岩(ホルンフェルス)が有ることを知りました。その後数回調査に行きましたが、晩秋から早春に掛けてでした。

自然体感会で熱変成岩の説明をしていた際に、目の前にネムノキにしてはやたら広い葉を持った木がありました。エンジュの仲間?と思ひ葉の標本を持って帰りました。

その日は、同定するのを忘れていました。2日目にリュックから標本を出すと葉がばらばらになりかけていました。図鑑を参考に検索するとオオバネムノキに行き当たりました。早速中西弘樹長崎大学名誉教授に写真を送ったところ、オオバネムノキに近いとの返事がありました。この時に私の脳には「オオバネムノキ」という名がすり込まれました(非常にまずいパターンです)。

冬期に撮影した写真を見ると落葉樹が数本見られ、一つには果実らしいものもついでいました。一株ではなく複数株があようです。

次の日再度調査に出かけました。植物に興味のある方にメールで「オオバネムノキ発見」と送っていたので、それを読んだ大谷さんが来ていました。

二人で亀の子島へ渡ると、同じ葉を持った木が沢山ありました。そこで、株数と胸高直径を測ることにしました。メジャーが無かったので、大方の胸高直径を測定したところ、最大で40cm。大小合わせると15株ありました。

樹皮がネムノキと違って一定以上の大きさになると縦に皮目がありました。

6月2日に再調査に行くことになりましたが、私はその日が都合が悪くなり、6月1日に出かけました。前は島の西側だけしか調査しなかったため、東側も調査したところ、3株がありそのうちの1株(高さ3m)には、10個ほどの花が咲いていました。花の撮影をし、小葉の数を調べるために大きさの異なる株の葉の写真を撮影してきました。

6月2日に調査に行ったメンバーから、島の西側の木には白い花が咲いていたと報告を貰ったので、6月3日に再度出かけました。しかし散っており花は1輪も有りませんでした。



この日はメジャーを持参し正確な胸高直径を測定しました。西側には最大のものは30 cm、樹高約10mを始めに19株、東側に3株がありました。

6月13日に少年科学教室で亀の子島へ行きましたが、東側の個体は見事に咲いていました。花の色は（実際は花糸の色）一般に見るネムノキより少し白っぽく、淡いピンクでした。しかし、東側の1株は濃いピンクでした。

撮影した写真から、小葉の数を数えると8~20対あることが分かりました。

小葉の数がオオバネムノキより多く、長さが短いことに加え花はオオバネムノキの白（終わりかかけた花は淡黄色）ではなく、ネムノキと同じでした。ただ、葉の陰で日が当たらない場所では花は白く終わった花は淡黄色でした。

図鑑で再度調べるとヒロハネムに近いことが分かりました。



6月15日に中西弘樹先生・大谷さんと3人で調査に出かけました。見事な花に中西先生も感激されていました。

現地で検討の結果、オオバネムノキとヒロハネムの雑種？・・・と考えられました。

ただ、本種の葉の裏にも表にも毛が有ることから、ヒロハネム近似種としました。

その後、中西先生から個体によってネムノキにも同じように葉の裏にも表にも毛が有ると報告がありました。

私も早速自宅近くの数株のネムノキを見たところ、同じように毛が有るものと無いものがありました。このことから結論としてはヒロハネムに落ち着きました。



「日本の野生植物,木本（平凡社 1999年）」によると国内での分布は熊本県天草・鹿児島県甑島に希と有ります。

熊本県では絶滅危惧 A類（CR）に指定され、苓北町（分布北限）と天草市（旧牛深市）の2カ所で生育が確認されており、生育個体数は20個体ほどと少なく、また一部は人為的な影響を受けやすい場所に生育しているため、今後注意が必要であるとされています。

鹿児島県では準絶滅危惧（NT）に指定されており、喜界島町指定の天然記念物です。この様に、希少な種（変種）が一つの島に22株もあるのは凄いことです。

中西先生は「小さい島は自然環境の変化を受けやすく、シイノキなどのような高木の常緑樹が入りにくいので、落葉樹（陽樹）が生育し易い環境にあり、それが変種を作り出す要因になったのではないかと話しておられました。

## ネムノキ部位比較表

小 葉					花序の柄	その他
<b>ネムノキ</b>						
長mm	幅mm	表面（毛）	裏面（毛）	数		
10-17	4-6	縁に毛	個体によって伏した軟毛を散生し、中肋上に毛	15-33	短毛を散生	
<b>ヒロハネム</b>						
長mm	幅mm	表面（毛）	裏面（毛）	数		
15-20	5-9					
<b>オオバナムノキ</b>						
長mm	幅mm	表面（毛）	裏面（毛）	数		
20-40	8-15	伏した軟毛を散生	伏した軟毛を散生	9-15	無毛又は短毛を散生	
<b>亀の子島産ネムノキ</b>						
長mm	幅mm	表面（毛）	裏面（毛）	数		
15-19	4-8	伏した毛を散生(縁にも)	伏した軟毛中肋上にも	8-20	短毛を散生	葉柄の腺点がネムノキに比べると明瞭(円形で褐色)